

石クリ通信

12月号

十年に一度！?

看護師 澤田 彰子

今年も残り一ヶ月となりました。年初めの占いでは今年は十年に一度の良い年になる...との事だったので、どんな年になるのだろうと期待していました。でも何かしら良い事があつたはず...:と思い返してみたら、そうだ!今年は大好きな果物狩りにたくさん行きました。イチゴ、びわ、さくらんぼ、桃、梨、ぶどう...旬の果物をお腹いっぱい食べられました。ただ、良い事が果物狩りだとすると、次に行けるのは十年後なのかしら...:何はともあれ、今年も楽しく健康に過ごせた幸せな一年でした。

写真を遺してくれた二人

院長 石川 悟

自分の部屋や居間に、額やパネルに入った白黒の写真を飾っている。

学生時代にオーケストラの演奏の写真を撮ってくれたのは、同級生のM君。東京出身で、卒業後は慶応大学の医局に入つて、一型糖尿病の専門家になった。埼玉県の基幹病院の部長として活躍していたが、数年前に若くして亡くなった。頭の回転が速く、非常に弁の立つ優秀な学生だった。写真部に属していたので、オケの写真を依頼したところ、快く引き受けてくれ、団員からの焼き増しや、引き延ばしも、商売の写真屋に頼むよりはるかに割安でやつてくれた(それでも本人の小遣い稼ぎにはなつていたようだ)。望遠で撮つてくれたパネルは、引越しのたびに大事に運ばれて、今も書斎に飾つてある。

日立総合病院のフォトセンターに勤務されていたKさんが、今年83歳で亡くなった。学会発表用の写真や、スлайド作りにとてもお世話になった人だ。写真撮影やビデオ撮影でも、よい作品を作ろうとするこだわりが人一倍強く、時に他の人との軋轢を生むが、安心して仕事を頼めるプロ魂を持った人だった。白黒の写真はもう撮っていないと言うのに、無理に依頼した50歳記念コンサートの写真は、院長室に無くてはならないものになっている。人生で何を成し遂げたというのも大事だが、何を遺したかも大きいと思う。亡くなった二人が撮ってくれた写真は、今も色褪せず思い出を語ってく



令和初年の年末所感 事務長 石川 都

今年六五歳となった私は、この超高齢化社会ではまだ初老でも、生物学的にはいつ終わりを迎えてもおかしくない年齢である。だいたい平均寿命が五十歳を越えたのは戦後である。エリクソンのライフサイクル論を引くまでもなく、古今東西の哲学宗教をみても、五十過ぎは確実に老年期・終末期にあたる。中国の易経(青春・赤夏・白秋・玄冬)ではまさに白秋から玄冬。インドのヒンドゥー教の四住期では後半の林住期・遊行期で、社会的役割を終え森に隠棲する修行期。つまり私の年齢は、死を射程に入れた人生の総括期と言えよう。

私は昭和の高度成長期に東京で生まれ育ち、筑波で結婚して子育てし、平成は日立で妻・嫁・母業と自身の仕事をこなし、令和には子の独立と世代交代を終え、まさにこれから夫婦相携えての最終ランが始まる。先のことは未定ながら、自身の人生終章では、心身の老い(衰え)を受け入れつつ、最期の日まで前向きに人生を送りたいと思う。人生で時に種がうまく芽吹いていければ、それを収穫し、自身の最後の糧にしたい。時代は今も加速度的に動いており、今年地域ニュースでも、日立鉾山で新鉱物「日立鉾」が発見されたり、福島県立医大で発見された(CBOでもR1でない)新血液型「KANNO」が承認されたりと、まだまだ科学や社会から目は離せない。それでも来年百寿を迎える義母が大正・昭和・平成・令和の四つの激動の時代を生き抜いたことを考えると、私なんぞまだまだ「ひよっこ」だと思ふ令和初年の年の瀬である。石川クリニック内外の皆様、この一年間大変お世話になりました。

七五三 通信・ウェブ担当 石川 香

娘が七五三を迎えました。私が三歳の時に祖母が見立ててくれた着物を娘が着て、私自身もその時と同じ母の着物を選びました。イギリスから主人の家族も来日し、御岩神社でお参りをしました。到底スタジオで大人しく写真を撮れる子ではないので、知り合いのカメラマンに頼んで家族写真や一日の様子を撮ってもらい、おかげで自然で温かい写真が撮れました。よかったよかった。



今年一年 看護助手 柴田 さち子

今年も早いもので、暦もあと一枚になってしまいました。平成から令和に年号が変わり、そして十月の台風十五号、十九号、二十一号の被害の大きき方には驚きました。被害者の方々には心より御見舞い申し上げます。来年はこのような大きな被害が無いことを願っております。今年もありがとうございました。来年も皆様にとって良いお年でありますように。

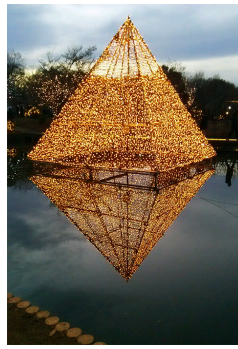


写真 あしかがフラワーパーク

今年もあとわずか

事務 田所 弓佳

今年もあと1ヶ月ほどになりました。今年は年号が平成から令和に変わり、消費税が8%から10%に変わり大きな変化があった1年になりました。私は平成生まれで初めて元号が変わるのもあつてワクワクしていましたが、実際に変わってみると全く実感がなく、テレビで「令和初めて」と聞いて感じるぐらいです(笑)。元号が変わって半年が経ち、あと少しで令和初の大晦日がやってきました。今年もあつという間にすぎた1年になりました。今年もお世話になりました。来年もよろしく願います。

石川クリニックの一年

看護師 太田 小百合

今年も気がつけば残すところあとわずかになりました。仕事を再開し、とても充実した一年を過ごせたのも、院長を始めクリニックのスタッフ、そして何よりも患者様の明るさと笑顔に助けられたからだと思います。また来年もご迷惑をかけてしまうこともあるかもしれませんが、何卒よろしく願います。

リベンジ増えました

事務 上野 亜希

十一月初旬の連休に泊しながら紅葉でも見に行こうという事になり、急ぎょ出発日の前日に宿を探し慌ただしく予約を取りプチ観光をしてきました。群馬県の尾瀬に宿泊し、翌日は「尾瀬といえどここ」という尾瀬ヶ原の湿原に行き、木の遊歩道で写真でも撮ろう!と軽く考えていました。宿泊先の従業員の方に聞いてみたところ、紅葉の時期は車も容易に停められず、シャトルバスで駐車場まで行き、駐車場から更に一時間程歩かないと木の遊歩道には行けないと聞き、軽い観光気分を考えていたので、こりや無理だと諦め、もう一つ行きたい所の候補にあった館林の美術館で開催されていたピカソ展に行き、芸術の秋を感じてきました。今年の石クリ通信三月号でも、山形県の山寺に登りきれず次にリベンジ!と書きましたが、今回リベンジする場所が増えてしまいました。次回はもっと綿密に計画を立て、時間にゆとりを持って尾瀬ヶ原に臨みたいと思います。